

平成 29 年 8 月 28 日

釜石市議会議長 佐々木 義昭 様

会派名 民政クラブ

代表者 遠藤 幸徳



会派合同視察報告書

2 会派所属議員による視察報告を下記のとおり実施しましたので、報告いたします。

(1) 視察項目

- ① ホタテ生産日本一の取り組み状況について（北海道猿払村）
- ② SNSを中心としたゼロ予算での議会広報について（稚内市）
- ③ RWC2019 開催に向けた取り組みについて（札幌市）

(2) 視察日程 平成 29 年 7 月 24 日（月）～7 月 27 日（木）

(3) 参加者 民政クラブ 松坂 喜史 遠藤 幸徳
清流会 菊池 秀明 平野 弘之
佐々木 聡 大林 正英

(4) 研修概要

(ア) 研修 1 日目

① 研修日

平成 29 年 7 月 25 日
午前 9 時 00 分～午後 12 時 30 分

② 研修課題

ホタテの漁獲量日本一の取り組み状況
について（どのようにして地域漁業を復興させたか）

- ③ 視察先対応者 猿払村議会 太田 宏司 議長
山村 清志 副議長
猿払村役場 眞野 智章 副村長
小林 智司 産業課長
阿部 真人 議会事務局長
永井 栞奈 議事庶務係

- ④ 視察先選定理由 ホタテの漁獲量日本一の取り組み状況について
（どのようにして地域漁業を復興させたか）

東日本大震災で被災した漁業の復活は市政の大きな課題であり、漁村の再生及び更なる生産拡大は急務であります。

著しく衰退した漁村を日本一の漁村に再生させた北海道猿払村の漁業復活



の取り組みを見分すべきと取りあげた。

⑤ 視察内容

- ・ 視察先の歓迎のあいさつ（猿払村議会議長 太田 宏司 氏）

東日本大震災からの復興の取り組みに大変なご苦勞を感じ、敬意を表します。本村の議員全員が5年前に釜石市をはじめ被災地を視察した折、大変お世話になりました。津波の被災地を直視し、自然災害の恐怖と防災の重要性を痛感しました。本村も大変な貧困な時期がありましたが、先人の想像を絶する取り組みに偉大さを感じております。

本日は「猿払村の漁業復活の取り組み」とのことですが、今回の視察が釜石市に有意義であることを念願として歓迎の言葉とします。

- ・ 視察先の説明（産業課長 小林 智司 氏）

「漁業復活及び政策転換の取り組みと経過」について（添付資料）により順追って詳細に説明された。

⑥ 主な質疑応答

Q 大変苦しい時代を経て現在に至りますが、厳しかった時期についてお聞かせください。

A ホタテ資源の枯渇し漁業で生計を立てることができず、廃業、離村者が多く過疎の貧しい漁村になりましたが、前浜はホタテの漁場として最適であること太古よりの歴史的事実であり、何とか復活させる構想を描いた笠井村長の指導の元に離村した漁業者を呼び戻し、45人ほどで企業体立ち上げホタテ増殖事業を開始して、資源復活を試みた。5年ほど厳しい時期がありましたが、放流事業の成果が好転し天然貝の大量発生と相成って水揚量が増大しました。

ただ、簡単に復活したのではなく「貧乏を見たけりゃ猿払に行け」と呼ばれた時代もあったことも事実です。地元に残った漁業者が浜にしがみついて耐え忍んでくれたので仲間を呼び戻すことができ、そんな彼らがいなければ今の猿払はないと思っております。



Q 企業体を立ち上げる時の漁業者の意識についてどのようなものだったのか。

A 皆さん、財政的には苦しい状況であったが、いろんな何とか出資金を工面して事業に参加してくれました。

Q 釜石の漁業は震災後、養殖業を再興するために「がんばる漁業」の制度の支援をテコに復活を見込んでおりますが、期待するほどグループ化の事業拡大が進まないのが現状です。今後の課題と思っております。

A 事業の大きさはともかくとして、猿払村の隣が宗谷の漁協と漁業環境

は類似しておりますが、猿払と同様の事業形態は難しいと聞きます。他の地区はタコやカニ、タラなどいろいろな漁業があり、反面、猿払はホタテ漁業以外、何もないのが成功した原因かもしれません。

⑦ 行政視察所感

ニシンやホタテ資源の乱獲により著しく衰退した漁村となった昭和30年代は、漁業者の廃業する人や離村する人々が多くなり、「貧乏を見たけりや猿払に行け」と呼ばれた時代もありました。厳しさを耐え忍び地元に残った漁業者が漁協を核に自らの企業体を立ち上げ、ホタテ資源の復活、漁村の復興を成し遂げ、漁家収入4,000万円とも5,000万円ともいわれる日本一の豊かな漁村を甦らせた実績、また強い指導者のもと共同企業体を確立させたことを学ぶにあたり、日本の漁村の目指すべき姿を垣間見たような感もありました。

被災地の当市の漁業支援の柱であります「がんばる養殖漁業」の在り方に大きな刺激を受けました。今後の当市の水産行政に漁業者とともに更なる努力と精進が求められるものとともに、今回実感した大いなる衝撃を今後の水産振興に参考にしていきたい思っています。

(イ)研修2日目

① 研修日

平成29年7月25日(火)午後2時00分～午後4時00分

② 研修課題 SNSを中心としたゼロ予算での議会広報について

③ 視察先対応者

稚内市議会事務局 谷原 敏夫庶務課長
小野寺太一庶務課書記
足立 麻紀庶務課主任
牧野 竜二庶務課



④ 視察先選定理由

時代の潮流の中で文明の利器は日々進化を遂げている。

これを日々の生活に活かすのか、活かさないのかは考え方次第である。自治体におけるSNSの有効活用、先進事例を学び将来のまちづくりに少しでも「はずみ」と「きっかけ」になる事を望み視察研修テーマとした。

⑤ 視察内容

稚内市議会では、2013年4月1日より、市民の皆さんに議会に対する理解と関心を持っていただき、より身近な議会を目指すため、インターネットのサービスである「フェイスブック」を活用し、情報発信を行っています。

稚内市議会公式フェイスブックページの役割

フェイスブックに登録をしている方は、稚内市議会のフェイスブックページで「いいね。ボタン」を押すことで、稚内市議会が発信した最新情報を常に受け取ることができます。

例えば、議会だよりで皆さんにお伝えしている情報を、先にフェイスブックで知ることができます。また、パソコンだけではなく、携帯電話からも見ることができます。

年4回発行の議会だよりやホームページと連携し、稚内市議会の日々の出来事や市政について、できるだけわかりやすく皆さんにお伝えするため、これからも努力をしていきたいと思えます。

⑥ 主な質疑応答

Q この施策に取り組んだ背景は何か。

A 若い世代の市民が議会だよりをあまり見ていないことがアンケート結果から分かった。若い世代に見てもらうためにこれに取り組んだ。

Q この施策で苦勞していることは何か。

A 記事を何にするかについて悩む事がある。文章だけでなく画像や動画を添付したほうが市民からの反応が良い。

Q この施策の成果と効果についてどのようにとらえているか。

A より多くの市民に議会の中身を知ってもらうことで議会に関心を持ち、それが機運醸成となってよりよい議会になること。

Q SNSの解析機能とはどんな機能なのか。

A 閲覧者の年齢層、性別、住んでいる市区町村がグラフで見ることができる。

Q ネット環境を持たない市民へは紙媒体で配布するのでしょうか。

A そうです。

⑦ 行政視察所感

稚内市は平成25年4月よりソーシャルネットワーキングサービス（SNS）を開設運用し、議会の審議内容をはじめ、議会活動状況を発信しております。

事業開始の頃は、閲覧数は伸びず、情報の内容が写真のみ、文字のみの時の反響は大きくなかったが、動画の投稿を開始したところ閲覧件数が高くなった、とのことです。当市でもフェイスブックページはあるものの、更新のサイクルは活発とはいえ、今後に期待するところではありますが、投稿のタイムリー性を検討していただきものです。また、SNSができない市民への発信が課題であり、高齢者には広報、若者にはSNSと棲み分けの選択肢であります。どちらにしても大切な情報手段であり、しっかり実行し成果を上げることが重要であると思えました。

(ウ)研修3日目

① 研修日 平成29年7月26日 午前9時30分～午前10時35分

② 研修課題

- ・ 札幌市のラグビーワールドカップへの取り組み状況について
- ・ ラグビーワールドカップ会場「札幌ドーム」現地視察

③ 視察先対応者 札幌市スポーツ局 白石 将也(主査)、田中 仁
札幌市議会事務局 木村 友哉

④ 視察先選定理由 ラグビーワールドカップ(以降、RWC)は、世界三大スポーツイベントのひとつと言われておりアジア初開催となるビッグイベント。RWC2019日本大会では、世界一をかけて20チームが9月から約7週間にわたって日本各地の会場で48試合行う。試合会場には札幌市(会場:札幌ドーム)が選ばれており札幌市の取り組みについて伺う。

⑤ 視察内容

札幌市スポーツ局主査 白石 将也氏から「事前質問に対する回答書」について(添付資料)により順追って詳細に説明された。

【国際大会推進担当課】

① 試合会場に札幌ドームが選ばれてからの現在までの取り組み状況について

i. VDP(venue会場、development開発、plan計画)について
2016年4月にRWCリーグの視察があり、以下の課題を指摘されている。

- ・ 競技場のサイズについて、5mの外周区域を確保すること。
- ・ ホヴァリング式ピッチの上に、17mのラグビーポストの差込口を据付けること。
- ・ 会場にあるメインロッカールームAについて、使用できるようにすること。
- ・ 照明について、RWCの基準を満たすこと。
これらの課題解決にむけて、調整を現在進めている。照明については、すでに工事着手し、今年度中に完了予定。

ii. 試合日程の調整に関すること

札幌ドームは、北海道日本ハムファイターズと北海道コンサドーレ札幌の2つのプロ球団のフランチャイズ球場となっており、そのほかのイベント開催については日程的な制約がある。RWC開催日については、両球団と協議を行い、組織委員会に要望を出している。

iii. 公認キャンプ候補地の状況

2016年12月22日応募申請書を組織委員会に対し提出。以降数回組織委員会およびRWCLの視察が実施されている。正式に公認キャンプ地として承認されるのは夏以降。9月末にマッチスケジュールの発表がされるので、その後、各国からの視察等動きが活発になると考えている。

iv. 広報について

これまでラグビーワールドカップの PR としては、日本代表戦のパブリックビューイングや写真展などを行っている。また、ラグビー普及の取り組みとしては、小中学生を対象とした放課後ラグビーの取り組みなどを行っている。

また、社会人ラグビーのクラブチーム「北海道バーバリアンズ」の所有するグラウンドや宿泊の施設が、男女のセブンズラグビー日本代表の合宿を受け入れており、その都度激励や表敬を行い、ラグビー全体を PR している。

② 試合会場整備にかかる大会実施までの費用について

試合会場にかかる具体的な改修項目については、以下の通り。

実施年度	項 目
2018 年予定	ゴールポスト基礎工事・ゴールポスト物品購入
2018 年予定	ホヴァリングステージの拡張部分製造・人工芝物品購入
2018 年予定	ドーピングコントロールステーションの改修
2019 年予定	チーム更衣室改修
2019 年予定	記者席の増設
未定	ICT 整備
未定	照明用バックアップ電源
未定	公衆無線 LAN 設備

これらを含めて、会場整備にかかる仮設設置や諸室準備に

- ・ 2018 年度 81,000 千円
- ・ 2019 年度 215,000 千円の費用を見込んでいる。(2002 に行われた FIFA サッカーワールドカップをベースに積算)
- ・ このほか、2017 年度に札幌ドームの照明 LED 化とあわせて、RWC の基準に合致するように照明改修を行っている (480,000 千円)。

また、札幌ドームは、2020 東京オリンピックのサッカーの試合が行われる予定であり、照明改修やドーピングコントロールステーション等についてはオリンピック基準も確認しながら仕様を定めている。

③ 市民の盛り上がりについて

i. 開催を盛り上げるイベント計画について

市民の盛り上がり感はまだまだあまりない。試合日程が決まって、内容が具体的になると同時に盛り上がりも出てくるだろうと考えている。

ii. 今後、開催を盛り上げるためには

- ・ 大会の節目ごとにイベントを行う。(マッチスケジュール発表、2 年前、1 年前、100 日前など)
- ・ 日本代表戦のテストマッチのパブリックビューイングを実施する。

- ・ 夏祭り（ビアガーデン）やオータムフェスト、ゆきまつりなどの、多くの人が集まるイベントで、RWC札幌開催をアピールしていく。
- iii. また、ラグビー普及の取り組みについて
- ・ 小学校へのトップリーグ選手の派遣（スクラム先生）
 - ・ タグラグビーの授業での実施など、これまで以上に北海道ラグビー協会と連携し実施して行きたい。
- ④ 大会当日はどのような警備や交通安全対策等の検討について
- 札幌ドームは、日ハムやコンサート等で3万～4万人規模のイベントの実績を積んでいる。交通や警備については基本的には実績に応じた手配になると考えており、RWCに特化して特別に考えることは極めて少ないと考えている。
- ⑤ 開催費用について
- 札幌市の中長期実施計画であるアクションプランでは、2016から2019まで、8.5億円の費用を計上している。これは、主に開催都市分担金や宝くじ負担金などの組織委員会と開催自治体の役割分担が明確な費用を計上したものの。
- それ以外の前述した会場整備費や会場運営費等を含めて内々の試算では15～2億程度かかると考えている。これについては、役割分担や内容など不明瞭な部分があるため、今後も組織委員会と協議検討を進め具体化していく。
- ⑥ 現在の課題について
- i. 機運醸成について
- ・ 札幌市は、トップリーグのチームが無く、トップリーグや大学ラグビーの試合も、年に2～3回程度しか無いため、市民にラグビーの文化が定着していない。
 - ・ 今後どのように、市民にラグビーに興味を持ってもらえるか、PRが課題。
- ii. テストイベントについて
- ・ 札幌ドームでは、一度もラグビーの試合を開催した実績が無いため、競技運営や会場運営の確認としてテストイベントの実施を組織委員会に求められている。RWC開催日の調整と同様、テストイベントをいつ実施するかが課題。
 - ・ テストイベントとして実施可能な対戦カードの検討も課題。
- iii. 海外観光客について
- ・ 海外観光客向けの4カ国語パンフレットや、「札幌いんふお」という多言語に対応した観光地案内のスマートフォンアプリの運営等さまざまおこなっているが、平成28年度の外国人宿泊者数は約209

万 3 千人で、92.8%をアジアで占めている。

- ・ ラグビーワールドカップに向けては、ヨーロッパやオセアニアのラグビー先進国からの観光客を取り込むことが必要と考えており、海外観光客誘致の方法に一部課題がある。

⑥ 主な質疑応答

Q 1 立候補理由は？

A 1-1 札幌ドームが多目的利用であって、世界一流のスポーツ大会の開催を目指した。

A 1-2 国際大会（オリンピック、パラリンピック等）への対応スキルの積み上げ。

A 1-3 サッカーWC日韓大会 2002 開催経験も有って立候補しない選択肢 はなかった。

Q 2 試合会場に札幌ドームが選ばれてから現在までの取り組み状況について

A 2-1 VDP (venue 会場、development 開発、plan 計画) について 2016 年 4 月に RWC リミテッドの視察があり、以下の課題を指摘されている。

- ・ 競技場のサイズについて、5m の外周区域を確保すること。
- ・ ホヴァリング式ピッチの上に 17m のポストの差込口を据付けること。
- ・ 会場メインのロッカールーム A について使用できるようにすること。
- ・ 照明について、RWC の基準を満たすこと。

これらの課題解決にむけて、調整を現在進めており、照明は工事に着手し、今年度中に完了する予定。

A 2-2 試合日程の調整に関すること

札幌ドームは、野球の北海道日本ハムファイターズとサッカーの北海道コンサドーレ札幌の 2 つのプロ球団のフランチャイズ球場となっており、そのほかのイベント開催については日程的な制約がある。RWC 開催日については、両球団と協議を行い組織委員会に要望を出している。

A 2-3 公認キャンプ候補地の状況

2016 年 12 月 22 日、応募申請書を組織委員会に対し提出。以降数回組織委員会及び RWC リミテッドの視察が実施されている。正式に公認キャンプ地として承認されるのは夏以降。9 月末に試合スケジュールの発表がされるので、その後、各国からの視察等動きが活発になると考えている。

A2-4 広報について

これまでRWCのPRとしては、日本代表戦のパブリックビューイングや写真展などを行っている。また、ラグビー普及の取り組みとしては、小中学生を対象とした放課後ラグビーの取り組みなどを行っている。

また、社会人ラグビーのクラブチーム「北海道バーバリアンズ」の所有するグラウンドや宿泊の施設が、男女のセブンズラグビー日本代表の合宿を受け入れており、その都度、激励や表敬を行いラグビー全体のPRをしている。

Q3 試合会場整備にかかる大会実施までの費用について

A3 会場整備にかかる仮設設置や諸室準備に、2018年度81,000千円、2019年度215,000千円の費用を見込んでいる(2002年に行われたFIFAサッカーワールドカップをベースに積算)。

このほか2017年度に、札幌ドームの照明LED化とあわせてRWCの基準に合致するよう照明改修を行っている(480,000千円)。また、札幌ドームは、2020東京オリンピックのサッカーの試合が行われる予定であり、照明改修やドーピングコントロールステーション等については、オリンピック基準も確認しながら仕様を定めている。

Q4 市民の盛り上がりについて

A4-1 開催を盛り上げるイベント計画について。

市民の盛り上がり感はまだまだあまりない。

試合日程が決まって内容が具体的にになると同時に、盛り上りも出でくると考えている。

A4-2 今後開催を盛り上げるためには

- ・ 大会の節目ごとにイベントを行う。(マッチスケジュール発表、2年前、1年前、100日前など)
- ・ 日本代表戦のテストマッチのパブリックビューイングを実施する。
- ・ 夏祭り(ビアガーデン)やオータムフェスタ、雪まつりなど、多くの人が集まるイベントで、RWC札幌開催をアピールしていく。

A4-3 ラグビー普及の取り組みについては

- ・ 小学校へのトップリーグ選手の派遣(スクラム先生)
- ・ タグラグビーの授業での実施など、これまで以上に北海道ラグビー協会と連携し実施して行きたい。

Q5 大会当日の警備や交通安全対策等の検討について

A5 札幌ドームは、日ハムやコンサート等で、3~4万人規模のイベントの実績を積んでいる。交通や警備について基本的には実績に応じた手配になると考えており、RWCに特化して特別に考えることは極

めて少ないと考えている。

Q 6 開催費用について

A 6 札幌市の中長期実施計画であるアクションプランでは、2016 から2019 まで、8.5 億円の費用を計上している。これは、主に開催都市分担金や宝くじ負担金などの組織委員会と開催自治体の役割分担が明確な費用を計上したもの。

それ以外の前述した会場整備費や会場運営費等を含めて、内々の試算では15 ～20 億程度かかると考えている。これについては、役割分担や内容など不明瞭な部分があるため、今後も組織委員会と協議検討を進め具体化する。

Q 7 現在の課題

A 7-1 機運醸成について

札幌市は、トップリーグのチームがなく、トップリーグや大学ラグビーの試合も年 2~3 回程度しかないため市民にラグビー文化が定着していない。今後どのように、市民にラグビーに興味を持ってもらえるか PR が課題。

A 7-2 テストイベントについて

札幌ドームでは一度もラグビーの試合を開催した実績が無いため、競技運営や会場運営の確認としてテストイベントの実施を組織委員会に求められている。RWC 開催日の調整と同様、テストイベントをいつ実施するかが課題。

テストイベントとして実施可能な対戦カードの検討も課題。

⑦ 研修所感



RWC2019 開催に向け、他の開催地の取り組み状況を研修することにより、当市の取り組みの方向性についての立ち位置を見つめることができました。

札幌市は大都市であり施設等の環境、開催都市としての環境は万全であるが、サッカーやプロ野球の関心は強いが、ラグビーという競技に関心が薄く、ラグビーの魅力を市民とともに共有し、大会機運を盛り上げていくことが大きな課題であると、強調しておりました。

ゼロから取り組む当市においても、子供たちをはじめ市民一体となって機運醸成を図り、選手が最高のパフォーマンスを発揮できるような環境を整え、国内外の観客をおもてなしすることが、大会を成功に導くのだと思います。